

海外研修報告

第21回ユニバーシアード 北京大会に参加して

助手 濱田 幸二
(コーチ学講座)

はじめに

2001年8月22日から9月1日まで北京で行われた第21回ユニバーシアード競技大会に、日本代表女子バレーボールチームのコーチとして参加した。このユニバーシアード競技大会(2年に1回)は、学生のオリンピックといわれ、次世代のオリンピック代表選手が育成される大会でもある。実施種目は、陸上競技、水泳(競泳、飛込、水球)、体操、フェンシング、バスケットボール、バレーボール、テニス。また、開催国の要望により、これまで、柔道、レスリング、サッカー、ホッケーなどが追加競技として認められてきた。

今回の北京大会では、常実施種目と他追加競技として、サッカー、卓球、柔道が行われ、168ヶ国約6,655人(過去最多)の選手・役員が集まり盛大に行われた。日本選手団は選手210名、役員95名、エキストラ・オフィシャル15名の総勢320名で望んだ。大会直前に2008年に北京オリンピックが決まり、そのリハーサルも兼ねて、中国が国をあげて取り組み、盛り上がり肌で感じる事ができた大会でもあった。

1. 選手及びコーチングスタッフについて

日本代表女子チームの選手及びコーチングスタッフは、平成12年度の各大会及び選考合宿(2月中旬)において選ばれ、最終的には平成13年5月上旬の全日本大学バレーボール連盟強化委員会において決定された。また、ユニバーシアード大会(FISU)規約による参加選手規定は、大学在籍もしくは卒業後2年未満とされている。

監督：坂口憲政(嘉悦大学)

コーチ：濱田幸二(鹿屋体育大学)

ドクター：和田佑一(千葉大学医学部附属病院)

トレーナー：星野句里子(朝日生命久我山スポー

ツセンター)

アナリスト：川之上豊(大妻女子大学)

総務：小林理沙(嘉悦大学)

主将：田口 恵(東京学芸大学卒 茂原アルカス)

都沢みどり(筑波大学卒 日立佐和)

高橋 翠(日本体育大学4年)

富士原由美子(東海大学4年)

岡野知子(嘉悦女子短期大学卒 デンソー)

高崎早苗(嘉悦女子短期大学卒 嘉悦大学)

渡部有香(嘉悦女子短期大学卒 デンソー)

窪田聖香(鹿屋体育大学3年)

高橋牧子(東海大学3年)

横山雅美(嘉悦大学2年)

相蘇香奈(東北福祉大学2年)

川内やえみ(鹿屋体育大学2年)

2. 事前合宿について

北京大会に向けて、第1次合宿から第7次合宿まで計104日間の強化合宿を下記のように行った。

第1次合宿：平成13年5月14日～20日

JT(大阪)

東アジア競技大会が大阪で行われていたため、大会参加のオーストラリアチームと練習試合を中心に合宿を行った。オーストラリアチームは平均身長が180cm以上で高さ対策として充分成果を上げることが出来た合宿であった。

第2次合宿：平成13年5月20日～27日

パイオニア(山形)

パイオニアにおいてキューバナショナルチーム(オリンピック連覇中の世界ナンバーワンチーム)と合同で強化合宿を行った。練習試合を中心に行ったが、パワー・高さ・技術ともに世界トップクラスのチームと、ゲームを行いユニバ代表チームもセットを取ることが出来るようになり、チーム力もアップしていった。

第3次合宿：平成13年6月1日～3日

日立佐和(茨城)

海外遠征に備えて、日立佐和チームと練習試合を中心に、チーム構成の再チェックを中心に行っ

た。

第4次合宿：平成13年6月3日～13日

カナダ（マニトバ州，ウィニペグ市）

カナダのナショナルチーム及びユニバーシアードチームと公式戦及び練習試合，合同練習を行い，選手が日本から離れ，国際大会の経験を積むことによって，現地での対応力等がつきタフになっていった。

第5次合宿：平成13年6月18日～7月3日

デンソー（愛知）

選手個々人のレベルアップとチーム力向上のため，練習を中心に行った。

第6次合宿：平成13年7月3日～7月25日

デンソー（愛知）・東レ（滋賀）

合同練習と練習試合を中心に，終日チーム力の向上を行った。

第7次合宿：平成13年7月25日～8月7日

デンソー（愛知）

合同練習と練習試合を中心に，終日チーム力の向上を行った。

第8次合宿：平成13年8月7日～8月17日

茂原アルカス（千葉）

国内最終合宿では，茂原アルカスチームと練習試合を中心に行い。チームの最終チェックとコンディション作りを中心に行った。

結 団 式：平成13年8月17日 新高輪プリンスホテル（JOC主催）

翌日 8月18日 成田空港 北京へ

現地調整：平成13年8月18日～22日

現地練習会場にて調整練習

平成13年8月22日 開会式

3. 大会期間について

女子バレーボール競技は，16ヶ国参加で，試合は，A組（中国，カナダ，ニュージーランド，イギリス），B組（ロシア，台湾，ウクライナ，メキシコ），C組（日本，ブラジル，南アフリカ，香港），D組（スペイン，タイ，韓国，オーストラリア）の4ヶ国づつが4組に分かれ予選を行い，各組上位2チームの計8チームが決勝トーナメントへ駒を進める形式であった。

予選グループC組：8月23日～25日

【第1戦】

日本 3（25-13. 25-6. 25-8）0 香港

初戦と言うこともあり固さが見られたが，チームコンセプトである「スピードとテクニク」を全面に出すことが出来た。また，試合の雰囲気になれるためにも，エントリ－選手12名全員がコートに立ち，次の試合に備えることが出来た。

【第2戦】

日本 0（17-25. 20-25. 20-25）3 ブラジル

ブラジルは平均身長177cm，センターが192cmの大型チームであった。特徴としてはサーブとブロックで得点を重ね，レシーブ力もあるチームであった。日本は「スピードとテクニク」で，中盤までは競った展開であったが，セットの終盤ブラジルのサーブが効果的に決まりストレートで負けてしまった。

【第3戦】

日本 3（25-15. 25-10. 25-10）0 南アフリカ

攻守ともに実力が上である日本は，確実なプレイで南アフリカにストレートで勝利した。この結果，C組2位（1位ブラジル，3位香港，4位南アフリカ）で決勝トーナメント（準々決勝）に進んだ。

決勝トーナメント：8月27日～29日

【準々決勝】

日本 0（14-25. 15-25. 30-32）3 中国

準々決勝はA組1位の中国であった。地元開催と言うことでシニアナショナルチームから4名（学生にしたらしい？）を補強してのチーム編成であった。1，2セットは中国のパワーバレーが随所に出て日本は落としてしまう。しかし，3セット目は日本の持ち味である「スピードとテクニク」が全面的に出てセットポイントを取るが，試合巧者の中国がデュースの上勝利した。その結果日本は，明日からの5～8位順位決定戦に廻ることとなった。

順位決定戦

【5～8位決定戦】

日本 3（25-22. 25-20. 26-24）0 台湾

敗戦の後（メダルの可能性が消えた後）選手と

スタッフは、次なる目標（5位入賞）を目指した。また、気持ちの切り替えと、対台湾戦に向けてアナリストを中心として、作戦の確認を行い、試合は終始リードしたままストレートで勝利することが出来た。

【5～6位決定戦】

日本 3 (25-20. 25-13. 25-19) 0 スペイン
ユニバーシアード北京大会最終戦、最後は勝って終わりたい気持ちが全面的に出て、全員持ち味を出し、ストレートで勝利することが出来た。この結果日本は5位で大会を終了した。

最終順位

1位：中国 2位：ロシア 3位：タイ 4位：ブラジル 5位：日本 6位：スペインであった。

シニアの現在世界のトップ4はキューバ、ロシア、中国、ブラジルである。今回のユニバーシアード大会は、学生とはいえ世界のトップに通用する選手が数多く参加していた。この大会に参加していた選手の大半は今後オリンピックや世界選手権で活躍すると思われる。

4. 選手村での生活について

選手村は、北京市の北西（北京国際空港から約40分）に位置し、その敷地内で生活（衣食住はもちろん、病院、銀行、インターネットカフェまで）が全て出来るようになっていた。今後この一角を開発していき、2008年のオリンピックには数倍の規模の選手村にする計画である。また、セキュリティは厳しく各IDカードにはマイクロ

チップが埋め込まれており、ゲートを通るときは本人との照合がスムーズに行われていた。

練習会場や試合会場への移動は、シャトルバスが運行して（気まぐれで運行していない場合もあったが...）おり、時間を計算してスケジュールを決め移動を行った。

選手村内の管理棟には日本オリンピック委員会（JOC）本部もあり、行動予定表や結果報告、問題点等の情報交換のキーステーションになっていた。

5. まとめ

長期にわたり貴重な経験をさせていただき、関係各位には感謝申し上げます。おかげさまで、世界で戦うことの意義、難しさ、すばらしさを肌で感じる事が出来ました。また、今回選手団の松永団長（JOC）は、「ゴールドプラン」のなかで、学生選手の育成を全面的に押しだして頂き、強化合宿先や試合会場に足を運んで、選手たちにアドバイスや激励を惜しみなくされ、大変勇気づけられました。結果的にメダルに届かず5位入賞でしたが、20歳前後の若い選手が中心でしたので、きっと今後につながる財産になったと思います。

各国は国をあげて競技力向上（その中でも中国は脅威を感じた）に力を注ぎ、中途半端な強化策では日本はどんどん世界に後れをとってしまうと感じました。2004年のアテネオリンピック、2008年北京オリンピックで本学の学生が活躍することを願って、まとめとさせていただきます。



写真1) 開会式 前列左端が筆者, 2列目右から川内やえみ, 窪田聖香



写真2) 最終戦直後 強化スタッフと選手